

●NPOパワーアップ補助金事業成果報告会 資料

	<table border="1"> <tr> <td>団体名</td> <td>NPO 法人印旛野菜いかだの会</td> </tr> <tr> <td>代表者名</td> <td>理事長 美 島 康 男</td> </tr> <tr> <td>所在地</td> <td>佐倉市上志津 1 8 2 4 - 8</td> </tr> <tr> <td>電話番号</td> <td>0 4 3 - 4 8 8 - 2 5 1 5</td> </tr> </table>	団体名	NPO 法人印旛野菜いかだの会	代表者名	理事長 美 島 康 男	所在地	佐倉市上志津 1 8 2 4 - 8	電話番号	0 4 3 - 4 8 8 - 2 5 1 5
団体名	NPO 法人印旛野菜いかだの会								
代表者名	理事長 美 島 康 男								
所在地	佐倉市上志津 1 8 2 4 - 8								
電話番号	0 4 3 - 4 8 8 - 2 5 1 5								
1 事業名	生物多様性の保全・復元と環境学習								
2 事業費	1, 222, 720円（このうち県の支出500, 000円）								
3 事業期間	平成19年7月21日～20年2月25日								
4 事業の目的	<p>今日の印旛沼では、絶滅したマシジミ(二枚貝)が流域の谷津田の小川にかろうじて生息しているのを発見！また、タナゴ・メダカ等多くの貴重な水生生物が生息しており、タナゴと共生するいし貝も発見！このマシジミ・水生生物の調査を継続実施して、水質浄化に欠かせないマシジミ・水生生物の保全・復元活動を推進します。</p> <p>水路を小・中学生の体験環境教育の場としての活用を実施し、市民参加型の循環型社会を目指す「みどりの変革」の趣旨どおり、「とりもどそう！ふるさとの自然」環境づくりとして、印旛沼流域の生物多様性による印旛沼の再生を目指します。</p>								
5 事業概要	<p>I マシジミ・水生生物調査： 毎月1回印旛沼流域全谷津田の水路と保全区設定</p> <p>II 生物多様性保全・復元： 農業者（地権者）・印旛沼土地改良区との協働</p> <p>III 水路の環境整備：一斉清掃・草刈の実施、農業者（地権者）・印旛沼土地改良区との協働</p> <p>IV 体験環境学習： 印旛沼流域の小学校・中学校と連携して、生き物の育む水路での体験環境学習の実施</p>								
6 事業経過	<p>I マシジミ・水生生物調査：毎月1回印旛沼流域全谷津田の水路でマシジミ・水生生物調査を実施。計7回 参加人員：調査員6名・水生生物研究員1名</p> <p>II 生物多様性保全・復元：農業者（地権者）・印旛沼土地改良区との協働で谷津田水路の保全・復元の推進を策定。 八千代市2箇所・印旛村1箇所・佐倉市1箇所</p> <p>III 水路の環境整備：8月・10月一斉清掃・草刈の実施、農業者（地権者）印旛沼土地改良区との協働で実施。 8月：臼井田水路 9月：八千代市保品地区水路</p> <p>IV 体験環境学習：7月・9月には、野菜いかだの会活動場の佐倉市臼井田船戸大橋の水路脇広場で、体験環境学習を実施。</p>								

	<p>千葉県柏井小学校4年生44名</p> <p>学習内容： 千葉県水産試験場見学と体験環境学習</p> <p>①ポンプ場見学 ②生き物とのふれあい学習（つり大会）</p> <p>③アオコ観察 ④水質調査 ⑤印旛沼の水利用について</p> <p>講師：千葉県水産試験場・（財）印旛沼環境基金・印旛沼土地改良区・他 NPO 環境団体・千葉県環境研究センター</p>
<p>7 事業成果</p>	<p>■具体的な成果</p> <p>I マシジミ・水生生物調査：7回実施。</p> <p>2箇所マシジミ生息発見：吉田川上流、中流・神崎川熱田水路</p> <p>II 生物多様性保全・復元： 農業者（地権者）・印旛沼土地改良区との協働で水路の保全・復元策定。</p> <p>八千代市2箇所・印旛村1箇所</p> <p>III 水路の環境整備： 一斉清掃・草刈の実施2箇所。</p> <p>佐倉市白井田水路8月24日・八千代市保品地区水路8月26日</p> <p>農業者（地権者）・印旛沼土地改良区との協働で実施。</p> <p>IV 体験環境学習： 7月・9月には、野菜いかだの会活動場の佐倉市白井田船戸大橋の水路脇広場で、体験環境学習を実施しました。千葉県柏井小学校4年生44名</p>
<p>8 直面した課題と今後の展開</p>	<p>■直面した課題</p> <p>II 生物多様性保全・復元：農業者（地権者）・印旛沼土地改良区の協働で谷津田水路の貴重種の育む保全・復元を策定したが、水路の環境整備で一斉清掃・草刈の作業実施にあたり、作業人員確保が大きな課題でした。</p> <p>※実施出来たのは八千代市保品地区水路(800ミリ.)1箇所</p> <p>農業者（地権者）印旛沼土地改良区との協働で実施しました。</p> <p>■平成19年度以降の事業展開</p> <p>I マシジミ・水生生物調査： 毎月1回マシジミ・水生生物調査の継続実施。</p> <p>II 生物多様性保全・復元： 流域行政・農業者（地権者）・印旛沼土地改良区等と協働で継続実施。</p> <p>III 水路の環境整備：一斉清掃・草刈の実施。 流域行政・農業者（地権者）・印旛沼土地改良区等と協働で継続実施。</p> <p>IV 体験環境学習： 流域小学校・中学校と連携して、体験環境学習の実施。</p>
<p>9 補助金事業の感想等</p>	<p>補助事業を通じて、事業を実施出来ました事に感謝いたします。</p> <p>印旛沼再生事業の一環として補助事業の成果は継続性を持たせ、気の長い取り組みが大切で、次世代に受け継げるシステムの構築が必要であり、継続的な助成制度を願っています。</p>

